

『「復興の火」ボランティア 2020/3/21(土)8:30~19:30』

3月21日(土)は、ボランティアリーダー5名が、朝8:30から仙台駅東口に集合した。

「復興の火」東京オリンピック聖火観覧の方の整理、案内、誘導が、主な役割だ。リーダー集合後、担当の方との詳細な打合せ。そして、10:00からは、中央生涯教育センターで、他のボランティアさんと一緒に研修を受けた。

11:00から、仙台駅2階東西自由通路での案内誘導活動に入る。

「復興の火」前では、13:00からセレモニー。当然、ボランティアは見てない。このとき、待機列は仙台駅西口外。

その後、13:15過ぎに誘導されて、中(東西自由通路)に入ってきた。新型コロナウイルス感染拡大対策で、前後に1m程度の間を空けるために、ボランティア全員(32名)で対応。

観覧を待つ人たちとの会話が進む。

遠くから来られた人もいたり、実際に津波被害にあった被災者にもお会いしたり・・・

13:35、予定より早く、「復興の火」聖火観覧が始まる。待機列を経由して専用入り口から入った人だけ、聖火前で記念撮影ができる。宮城県、県警、組織委員会などで意見が異なったのか、二度にわたって、一時中断。主な理由は多すぎる観覧希望者。

西口外側は、東西自由通路と違って開放的な空間。でも、組織委員会は、多すぎる群衆を嫌ったみたいだった。

でも、何とか「復興の火」は消えないで、最後まで続いた! 14:30頃に一時中断したが、すぐに再開し、16:00過ぎまで。

このあとは、人が多すぎて危険とのことで、写真撮影お断り、立ち止まりお断りの、単に見るだけの公開に、切り替わる。

毎日新聞によると、52,000人、河北新報によると、55,000人の人で、ごった返した。でも、宮スタで経験が多い私たちには、そんなに大変な状況ではなかった。

多くの人がいたけど、皆さん、スムーズに進んでくれました。

子どもたちが目を輝かせながら、聖火を見ている。それを見ていた僕たちも心が和む。

19:00、聖火は静かに消える。

その瞬間、誰ともなく、拍手が起こる。

ボランティア全員が拍手!

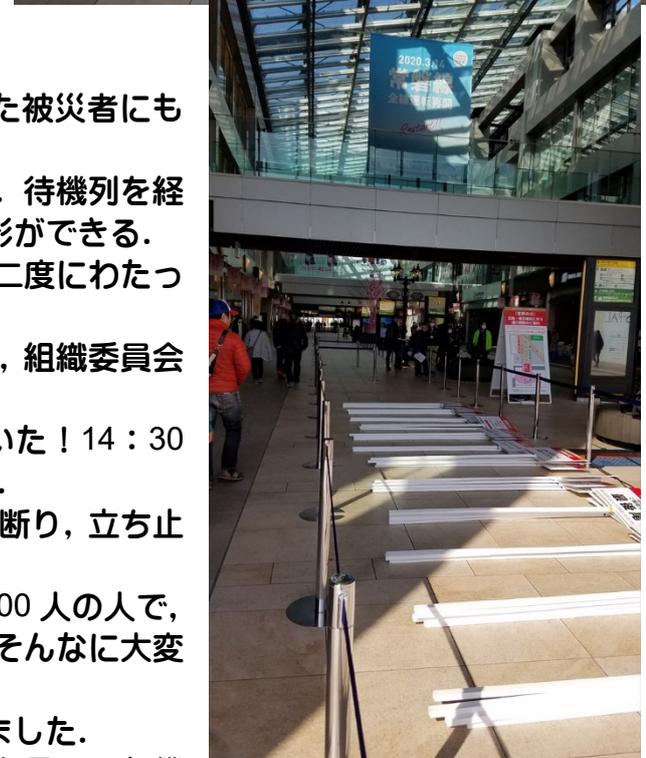
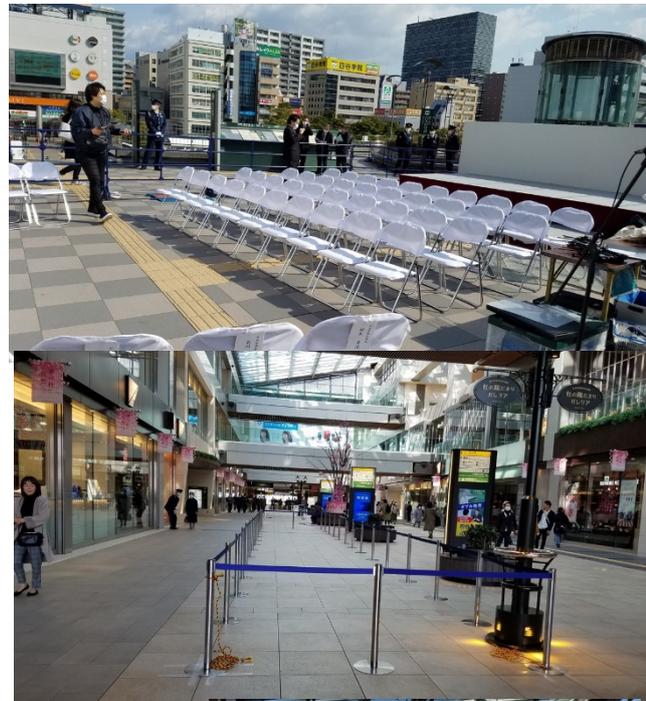
警備の一部の人たちにもそれがうつって、拍手!

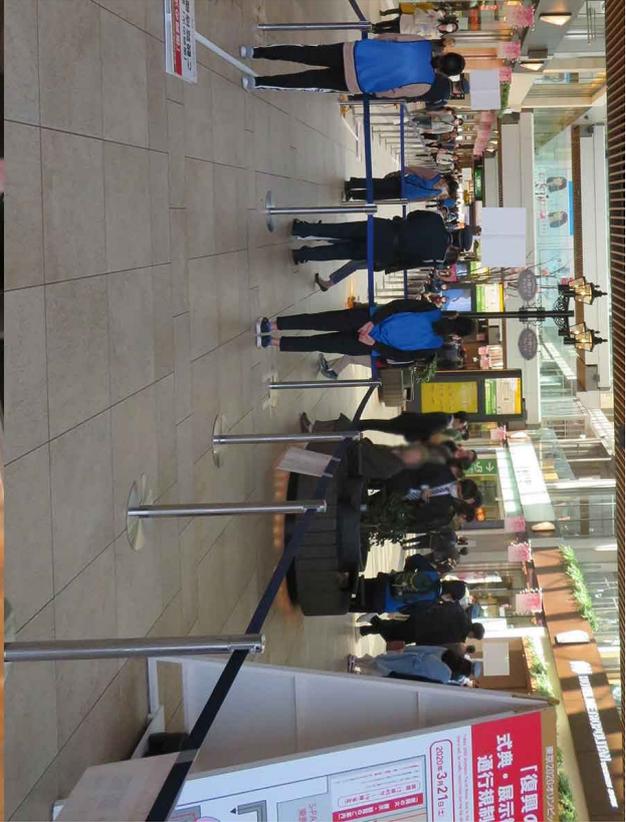
何だかとっても和やかな、「復興の火」の終わりだった。

立ち止めの、10時間だったが、とっても心が温かくなった、時間だった。

ボランティアのみなさん、ありがとうございました。

私の超難関で、大変な指示に、うまく対処していただき、本当にありがとうございました!





仙台駅東口 2020/3/21